

「自賠制度を考える会」が政府・与野党に陳情

麻生財務大臣、石井国交大臣、額賀自動車議連会長に要望書を手渡す

自 動車損害賠償保障制度を考える会は9月10日、麻生太郎財務大臣、石井啓一国土交通大臣、額賀福志郎自動車議連会長など政府・与野党を訪ね、自賠責積立金の維持と被害者救済事業の安定を確かなものとするための繰り戻しの継続と増額を求める要望書を手渡し、理解を求めた。

同会は、昨年11月、国交省と財務省の交渉が大詰めを迎えた時期に、麻生財務大臣に対し、「一般会計に繰り入れられたままの自賠責積立金約6,200億円を、国交・財務両大臣の覚書通り、平成30年度末までに返済していただきたい」と要望。当会議所の

内山田竹志会長も同じく11月、自動車議連の額賀会長へ同様の趣旨で陳情活動を展開。こうした活動が実を結び、平成30年度予算において、23.2億円が繰り戻され15年ぶりの返済再開の道が開かれた。

本年9月10日の陳情は、昨年実現した繰り戻しを梃子に、繰り戻しを継続・拡大し、被害者救済事業の安定的・持続的拡充を要望するために行われたもので、同会メンバー5人は、麻生財務大臣、石井国交大臣、額賀自動車議連会長などに面会し陳情した。

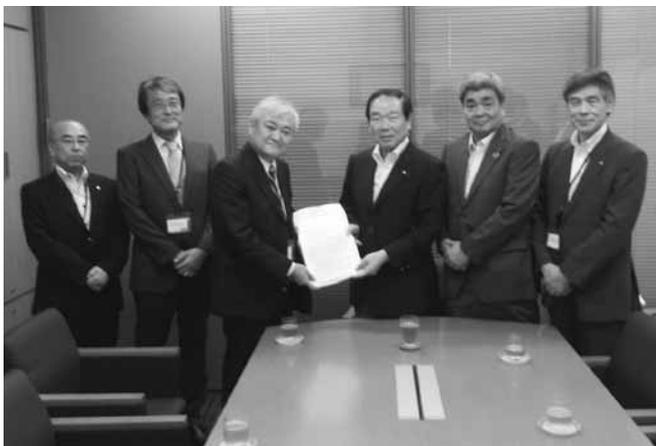
＝関連記事は5～6ページに掲載＝



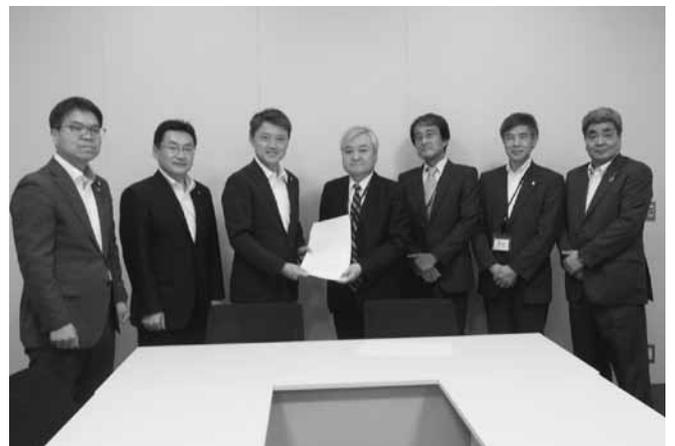
麻生財務大臣を訪問した「考える会」メンバー。左から矢代JAF会長、高倉自動車総連会長、桑山「家族の会」代表、麻生大臣、福田「考える会」座長（日大教授）、秋田会議所保険委員長



石井国交大臣に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から矢代氏、桑山氏、石井大臣、福田氏、高倉氏



額賀自動車議連会長（衆議院議員）に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から、稲垣JAF交通環境部長、桑山氏、福田氏、額賀会長、高倉氏、矢代氏



国民民主党の国会議員に要望書を手渡す「考える会」メンバー。左から、浜口参議院議員、磯崎参議院議員、古本衆議院議員、福田氏、桑山氏、矢代氏、高倉氏